

☆☆☆ Library Eye 2021 ☆☆☆

第20号 2021年11月1日(月)

発行元 明星中学校・高等学校 図書館



【ちょっと競争意識が強すぎませんか？】

その日は薄曇りでしたが、ふだんの土曜日となにひとつ変わらない、のんびりとした朝でした。ところが、リビングに座って、新聞を開いて、ある記事を読みはじめたとたん、突然、めまぐるしい時間が流れだしました。

それは、明星学苑にも講演でも訪れていただいたことのある、大阪大学教授で、ロボット工学者の石黒浩氏が寄せた東京五輪に関する記事でした。

この中で石黒氏は、オリンピックは「パラリンピックに比べてギスギスしているように感じられた」と感想を述べています。その原因は、もともと五輪は参加者が国際的につながることに意義があったはずなのに「競争意識が強すぎる」ことにある、と分析しています。なかでも感慨深かったのは「ちょっと優れた靴や水着が登場するとよくわからない基準によって制限されるのは、競争にとらわれすぎているからではないか」という指摘でした。

近年、とみに「多様性」という言葉を耳にするようになりましたが、それを真に受容するのは、そう簡単なことではありません。

つまらない競争意識に基づく狭い見方は、グローバル社会の進化・成長を遅らせる要因にしかならない、ということ、私たちは再認識すべきではないでしょうか？

【子どもの声に耳を傾けよう！】



毎日、口にしている野菜や果物、肉などの食品に、どれだけの農薬が使われているか、ご存じでしょうか？

岩澤信夫氏は不耕起栽培の第一人者です。稲刈りが終わるとトラクターで田畑を掘り起こし、農薬や化学肥料に依存する慣行栽培に対し、不耕起栽培は、稲刈り後、耕さずにすぐに水を張ります。すると、まずイトミミズが発生し、続いて藻類、トンボ、ドジョウ、タニシ、カエル、マガンなどの生物が増えてきて、多くの酸素や栄養分が自然に供給されるようになります。こうして稲を中心とした生き物同士の複層的な生態系(つながり)が形成されることで、病害虫だけが異常発生するような環境にはならないので、自然と農薬を撒かなくても済むのです。

平成5年、日本中を襲った大冷害の時は全国的な凶作だったにもかかわらず、不耕起栽培の稲はみごとに育ちました。つまり、「植物の声に耳を傾ける」ことによって、稲の中に眠る「野生を引き出す」ことに成功したのです。

現在はコロナ禍によるリモートワークやソーシャルディスタンスなどで、人と人の距離が「疎」になる傾向があります。図書館でも「ゼロ密」の推奨・指導に努めていますが、どれほど距離は離れていても「子どもの声に耳を傾ける」ことを忘れてはならないでしょう。生徒の命・健康を守ることと、それぞれの個性・人間性を引き出すことは同義語である、という共通認識のもとに。(9月5日記す)

ロボットとは何か
人の心を映す鏡
石黒 浩

なぜ、私は
人間型ロボットを
つくるのか？



【「先生おすすめ本」紹介♪】



現在、図書館の入口横の書架を使って「先生のおすすめ本」を紹介しています。生徒から人気の企画展示で、昨年はコロナ禍で実施できなかったのが、2年ぶり3回

目の開催となります。夏休み前に図書委員から先生方へおすすめ本の紹介カードを渡してもらい、2学期になってまた図書委員に取りに行ってもらいました。9割以上の先生方に提出していただいたので、100枚以上の紹介カードが集まりました。

先生方のおすすめ本は、哲学、エッセイ、小説、歴史、自然科学、スポーツ、料理、絵本、コミックと分野が幅広く、50年以上前に刊行された名著から、学生時代に会った青春の一冊(?)、新刊の話題本までバラエティーに富んだ選書になっています。教科と関係のある本を紹介している先生が多いですが、全く違った分野の本を紹介している先生もいらっしゃいます。図書館に蔵書がない本は、できるだけ発注(約40冊)をして揃えました。残念ながら重版未定で購入できない本(10冊)もあり、その場合は府中市立図書館などにあるか調べて案内し、先生の紹介本が生徒に届くようにしました。

先生の紹介カード(POP)は、書影やイラストを入れ、カラフルに作られたもの、力強いタッチの肉筆や裏面まで本への思いが書かれたものなど、先生方の個性が表れていて興味深いです(毎回、美術の先生の完成度は高いです！)。

生徒たちは熱心に紹介カードを読んで、借りてくれています。かつて先生が恩師から紹介されたという本もあり、それを今度は明星の皆さんに紹介…と本が時代や世代を超えてつながっていくのも面白いです。

【朝読書の時間に伺いました！】

中学校では、1年生から3年生まで、ホームルーム前の10分間に『朝読書』を行っています。図書館は、8時半に開館するのですが、開館を待って朝読書の本を借りに来館する生徒も多くいます。

1日のスタートに短時間でも読書をする事は、本に触れる機会をつくる意味でも、幼少期についた読書の習慣を継続する意味でも、非常に良い取り組みだと思います。

そと廊下から、『朝読書』の様子を写真に収めました。クラスの生徒全員が、静かに本を読むことに集中しています！



※中学2年1組の様子です。

【放課後の利用風景…】

15時20分に6時間目が終わると、HRが終わった生徒から次々に来館し、20分も経つとほとんどの席が埋まります。窓際のキャレル席はとても人気ですが一人掛けなので、友達と一緒に勉強するのが好きな生徒には書棚で囲まれたテーブル席が人気です。最近ではお互いに配慮して、お喋りする生徒は少なく、すぐに静寂につつまれます。これまでは席数を半分にしていた開館でしたが、10月20日より緊急事態宣言の解除を受けて全席利用可になりました。現在利用できる席は97席ですが、通常でも約50名の利用があります。17時を過ぎると個々に下校を始めますが、18時半の閉館時間まで利用する生徒は毎日20名程いて、そのほとんどが常連の生徒です。学習空間としての図書館利用が定着しつつあることを大変嬉しく思い、これからもお子さんたちを応援していきたいと思っております。